



46

ふるさと吟遊芭蕉の里

ざん ゆう ば しょう

「ふるさと吟遊芭蕉の里」は、松尾芭蕉が『奥の細道』の旅をした翌年の、元禄三年の春から夏にかけて過ごした幻住庵跡を中心に整備したもので、清水が湧き出る山あいの緑の美しいところにある。芭蕉が米を洗ったとされる、とくとくの清水から湧き出る水を日本古来の石組みの技法で導いてせせらぎをつくり、周囲の山道を園路にして、日本庭園の遠近

や縮景の手法を取り入れながら、現況利用の保存整備に主眼をおいて施工した。こうして、芭蕉が求めた幽幻の世界を表現することにより、さらにうろおいのある空間の創出を図るとともに、それらの空間において復元された幻住庵を中心に句会や茶会などが行われ、地元の人々の熱心な文化活動のよりどころとなっている。

DATA・BOARD ④⑥

- ① 滋賀県大津市国分2丁目
- ② 面積：3,400㎡，せせらぎ延長：45m，幅員：1～5m，園路：85m
- ③ 幻住庵，園路，せせらぎほか
- ④ 自然石，植栽ほか
- ⑤ 芭蕉祭，句会ほか



● 自然とふれあう水辺づくり